

文 教 厚 生 建 設 委 員 会
令和 6 年 8 月 22 日（木）
午前 11 時 25 分開議

議員定数 9 名

出席議員 9 名

堀内 和久	垣内 憲一
板橋 真弓	岡本 喜好
梅本 知江	高本 勝次
岡本 安弘	辻本 勉
土井裕美子	

他に 議長 森下 伸吾

会議に付した事件

1. 所管事務調査（市立小中学校の長寿命化改良事業の進捗状況等について）

説 明 員

副 市 長	小原 秀紀	教 育 長	今田 実
危機管理監	大岡 久子	総合政策部長	井上 稔章
政策企画課長	辻本 真吾	総 務 部 長	中岡 勝則
財 政 課 長	三嶋 信史	消 防 長	永井 智之
建 設 部 長	西前 克彦	上下水道部長	堤 健
教 育 部 長	岡 一行	教育総務課長	丸山 恭司
会計管理者	兼井 和彦		

職務のため出席した者

事務局次長	笹山 奨		
議事調査係長	中井 ユリ	書 記	諸田 泰己

(午前 11 時 25 分 開議)

○委員長（堀内和久君）ただ今の出席委員は 9 人で全員であります。

これより文教厚生建設委員会を開会いたします。

1 所管事務調査（市立小中学校の長寿命化改良事業の進捗状況等について）

○委員長（堀内和久君）本日の協議事項は、本委員会では 6 月定例会中に継続調査となった所管事務調査、市立小中学校の長寿命化改良事業の進捗状況等についてであります。

本調査に関し、当局より追加資料の提出がありましたので、提出資料等について当局より説明願います。

教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君）よろしくお願います。

それでは、市立小中学校長寿命化改良事業の進捗状況等についての 2 回目ということで、提出資料に対するご説明をいたします。

今回、まず、これまでに実施した改修工事を記載した追加資料という形でお配りしております資料 1 枚ものになっておりますので、前回、6 月にお配りしました資料に追加したポイントについてご説明をさせていただきます。

1 つ目ですけれども、過去の施工実績については、前は平成 31 年度までの過去 5 年間、5 年分でしたけれども、今回は、平成 21 年度までの 15 年間の実績を記載しております。前回の資料では、平成 31 年度からの西部小学校、令和 4 年度からの城山小学校の長寿命化工事と令和 4 年度からの紀見小学校の外壁工事を記載しておりましたが、今回の資料では、年度別に申し上げていきますと、まず小学校では、平成 21 年度、平成 22 年度に重要文化財に指定されております高野口小学校の大規模改造事業（老朽）を実施しております。平成 22 年度に応其小学

校、平成 23 年度に西部小学校、城山小学校と隅田小学校の地震防災対策事業（耐震補強）を実施しております。平成 24 年度から平成 26 年度の 3 年間で、隅田小学校の大規模改造事業（老朽）を実施しております。平成 29 年度から平成 30 年度で、学文路小学校の大規模改造事業（老朽）と応其小学校の校舎の長寿命化改良事業を実施しております。また、平成 30 年度に屋体の外壁改修を実施しております。平成 31 年度には、各校の普通教室にエアコンを設置する大規模改造事業（質的整備）空調改修を実施するとともに、柱本小学校の屋体の外壁改修を実施し、西部小学校の長寿命化改良事業をこの年度から 3 か年にわたって実施しております。令和 2 年度には、城山小学校、清水小学校、境原小学校で、計画外になるんですけども、外壁の落下防止対策工事を実施しております。また、紀見小学校の大規模改造事業（質的整備）トイレ改修を実施し、境原小学校、学文路小学校と応其小学校の屋体の防災機能強化事業（落下防止）として照明の LED 化を実施しております。令和 3 年度には、三石小学校と柱本小学校の大規模改造事業、トイレ改修と、恋野小学校の屋体について防災機能強化事業として照明の LED 化を実施しております。令和 5 年度は、恋野小学校の大規模改造事業のトイレ改修、隅田小学校、紀見小学校、高野口小学校、応其小学校のトイレ改修と空調改修を実施しております。令和 6 年度、今年度ですけれども、施行するものとして、西部小学校、城山小学校の特別教室の空調工事、清水小学校、境原小学校のトイレ改修工事を行っております。

続きまして、中学校につきましては、平成 22 年度に高野口中学校、平成 23 年度に隅田中学校、平成 24 年度に紀見東と現橋本中央中学校の耐震工事を実施しております。平成 31 年度には、各中学校の普通教室の大規模改造事業、空調改修と、隅田中学校と紀見東中学校のトイレ改修を始めております。令和 2 年度には、各中学校の特別教室の大規模改造事業、空調改修と、隅田中学

校の普通教室棟と増築校舎①と紀見北中学校の校舎の一部の外壁落下防止工事を実施し、隅田中学校と紀見東中学校の屋体の防災機能強化事業として、照明のＬＥＤ化を実施しております。また、紀見北中学校の大規模改造事業ということで、トイレ改修を実施しております。令和３年度は、橋本中央中学校のトイレ改修を実施しております。令和４年度は、紀見北中学校屋体の防災機能強化事業として、照明のＬＥＤ化を実施しております。令和５年度は、紀見東中学校の大規模改造事業ということで、ＬＥＤ化を実施しております。令和６年度、今年度に施工するものとしまして、隅田中学校の屋体の長寿命化工事と、橋本中央中学校の大規模改造事業としての照明のＬＥＤ化を行っております。また、工事ではありませんけれども高野口中学校の耐力度調査を実施しておるところです。

令和７年度以降につきましては、空調改修工事など令和１０年度までの計画としての要望を市長部局とも共有しておりますけれども、今のところ決定ではありませんので、あくまで予定ということでご理解をお願いいたします。また、長寿命化や予防保全事業については、前回の資料でもお示しいたしましたが、老朽化した建物について物理的な不具合を直し建物の耐久性を高めることに加えて、建物の機能や性能を現在の学校が求められてる水準まで引き上げる改修を行うことであり、建築から２０年経過後に予防保全的な改修をして、４０年経過後に長寿命化改修を、６０年経過後に予防保全的な改修を実施することによって建物を良い状態に保ち、７０年から８０年使用することができるようにするものとなっています。今のところ、施工にあたっては、基本的には校舎の長寿命化には３年間、屋体には２年間としていますので、限りある人員体制のため、施工年度が後になっていくことが想定されております。

資料に対する説明は以上となります。ありがとうございました。

○委員長（堀内和久君）説明が終わりました。

当局提出の資料に対し、また、本調査事項に関し、質問等ありませんか。

辻本委員。

○委員（辻本 勉君）すみません。高野口中学校の関係なんですけども、調査は今されと思うんですけども、これは予定どおりの時期に報告ができる状態にあるんかどうかな、また委員会の報告いつしてもらえるんか、ちょっと答弁いただけますか。

○委員長（堀内和久君）教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君）現在のところ調査を行っておりまして、現地調査のほうは、今、一旦終了しまして、今、資料の分析ですとか報告書の作成を行っておりますので、この調査の工期が１０月末までとなっておりますので、その後また委員会等への報告をさせていただきたいと思っております。

○委員長（堀内和久君）１１月までにという解釈でいい、１１月中ぐらいの解釈ということでよろしいですか。報告を受ける日はそうなんですけど、私らに報告できるのは、何月上旬、下旬、中旬とか表現していただけます。

教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君）１１月を目標に、一旦、下旬という形でお願いしたいと思います。

○委員長（堀内和久君）１１月中には何らかの報告が来るということですね。承知しました。

辻本先生よろしいですか。

ほかにありませんか。

副議長。

○副議長（岡本安弘君）その関連でお伺いするんですけど、ほかの長寿命化、中学の長寿命化を見ると、本来ですと高野口中学校がもうちょっと早めに長寿命化するべきやったのかなと思うんです。そうじゃないと、かなり先に長寿命化にいきますので、早くするべきであつたのかなと思うんですけど、耐力度調査をしてる中で、今後１１月

に報告いただけるっていうことで、その先をどうするかっていう、建て替えなのか、リノベーションなのかっていうところも、また結果出ると思うんですけど、それまでに、現状、体育館もそうですし、本体の躯体の雨漏りなんかはかなりひどいということで、結果が出るまでにも、何かこう対処しないとイケないんじゃないかなと思うんです。もし建て替えになった場合でも、すぐ予算をつけたりとか、結構何年か先になるんで、そしたらそれまで、その現状の校舎をどうしていくんかっていう、そういうお考えがあれば、ちょっとお伺いしたいんですけれども。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） お答えいたします。

令和6年度、今年度なんですけども、ちょうど入口のところですね、庇のところあるかと思うんですけども、その、今、言った溝部分については、防水の修繕工事っていうのを、今やっておるところです。そのちょっと状況見ましてですね、その後ですね、どんな状況なのかちょっと確認させていただいて、進めていきたいと思っています。

また、屋内運動場のもですね、庇とかの防水とかですね、緊急の改修を今、設計をやっているとところになります。

また、屋体の雨漏り等もですね、ちょっと今、業者さんに見てもらって状況を確認して、どういったことができるかというのを、今、検討してるところです。

以上です。

○委員長（堀内和久君） 副議長。

○副議長（岡本安弘君） 確認していただくのは十分、十分わかりますし、言ってることわかるんですけど、耐力度が終わって、次どうするかっていう結果が出るまで、やっぱり結局何年もかかるわけじゃないですか。リノベーションするにしても。同僚議員からもいろいろ高野口中学校に関して、いろんな提案もしてもらってる中で、結局、やったけれども雨漏りも止まらないし、床

もボコボコであるっていうところで、学校として体をなしていない。環境も粗悪な環境であるっていうところなんで、その辺ある程度やっぱりもう耐力度が出て、結果が出るまでにでも、もう少しちょっと環境を整えてあげるべきじゃないかなと思います。体育館なんかも避難所にもなっておりますし、その辺を何とかもう少しこう、対処していただきたいなというふうに思うんですけど。今の答弁だけでは、ちょっと不十分かなと思うんですけど、その辺お願いいたします。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 今のところ、ちょっとここ対処療法的なことしかできてはないんですけども。ちょっとどういったことできるか、市長部局とも協議して進めていきたいと思っています。

○委員長（堀内和久君） 対処法、副議長は割と包んで聞いてくれとるんで、優しい物の言い方になっと思うんですけど、所管事務調査を調査依頼かけて説明せなあかん義務のうえで来ていただいとって、そういうところが検討して、今、答えられないっちゃうことは、何しに来たんですかっていう話になっちゃうんです。

高野口中学校雨漏り云々っていう議論は、私4期生ですけど、同僚議員が10年ぐらい前かなっていう話なんです。リノベーションするかどうかっていう、優しくこう聞いていただいとるけども、あの状態で今、夏休みでよかったですねっていう話で調査してます。その答えが11月に教育委員会内部で揉んで、11月に答え出します。報告来ます。その間、彼らはどうなるんですかっていう案を教育委員会の中で持っていないのに、今日ここへ何しに来たんですかっていうことになってくるんです。報告案件と違って、こっちから調査お願いしとるんです。なぜその言葉出せないんですかって聞いていいのかな。わかりませんっていうのが答えなんですか。それとも議論してませんっていうのがちゃんと答えなんですか。きちんと明確に議事録に残してください。

教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 対策のほうなんですけども、今年度の予算でですね、その底のですね、改修の工事の予算も 1,100 万ほどついておりますので、そういったことの対応を、まずしていきたいと思っております。

その他の屋体につきましてもですね、ちょっと雨漏りの部分の現場とか見ていただきまして、なかなか、抜本的というわけには、今ちょっといってないんですけども、そういった部分の塗装、鉄板部分の塗装とかですね、シーリングの打ち替え等の修繕をやっていきたいと。それで、少しでも改善をしていきたいという形を考えておるところです。

○委員長（堀内和久君） ほか。高本委員。

○委員（高本勝次君） ちょっと根本的に聞きたいんですけども。今、調査されておるんですけども、一言でどうなんですかね。現地建て替えのための調査なのか、それとも新たなところへ移すため、どういうことを含んだ調査になってるのか、ちょっとね、疑問の声を聞いてるんで、正直なところ、どういうふうな考えを持っておられるのかをお聞きしたいんです。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 耐力度調査につきましては、その出た結果の点数によりまして、長寿命化になるのか、建て替えになるのかっていうのが決定します。決まってくる点数、判断資料になりますので、どちらのほうのためという調査ではなくて、どういった対応ができるかというのを、検討を考えるための調査という形になります。

○委員長（堀内和久君） 高本委員。

○委員（高本勝次君） 保護者とか地域の人たちから、もうご存じと思うんですけども。考え方いろいろあると思うんですけども、どこへ移動する、移設するっていったら、どこへ持ってくると、また離れていく地域も出てくるやろうし、近くなる地域も出てくると。地域の人たちは、今、多く聞いているのは、街なかへ持ってきてほしいという

保護者の人たちや卒業生の人たちが、署名運動まで今始めてるんですよね。だから、その結果次第では、現地でそのまま建て替える可能性となったら、ちょっと複雑な問題が出てくると思うんですけども、その兼ね合いがどういうふうに理解されて思っておられるのか、お聞きしたいと思うんです。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） そういった住民さん方の活動等もありますので、調査結果を基にですね、いろいろとどういった点数によって、どういうふうな対応できてくるかというのは、考えていく形になるので、そういったご意見もあるのは、踏まえたうえでも検討していきたいという形になります。

○委員長（堀内和久君） 辛いのはわかります。職責で聞いとるんで。

暫時休憩いたします。

(午前 11 時 43 分休憩)

(午前 11 時 45 分再開)

○委員長（堀内和久君） 再開いたします。

教育部長。

○教育部長（岡 一行君） 失礼しました。

耐力度調査の点数によりまして、今、現地で建て替えるか、或いは改築かという問題が大前提にあるんですけども、改築となった場合は、例えばなんですけども、高野口中学校の敷地内のグラウンドに建てるとか、もしくは別のところっていう考え方があるんですけども、別のところっていう候補地は正直探せておりません。一部で、失礼しました。署名活動も今、行われて、そういう話も聞いております。事務レベルで、いろんな水面下とか検討は行っているんですけど、まだ公にそれを面積的であったり、数字的なことであったりという形で、こういった形で議論をできるっていうところには、とても用意できてないので、考えてはいるんですけども、こういう議会場で検討してるって、自信持って言えるところまではいっていないのが正直なところなんです。

以上です。

○委員長（堀内和久君） その答弁で結構ですよ。してないということで、結構でございます。

ほかにありませんか。

岡本委員。

○委員（岡本喜好君） 今のお話でいくと、耐力度調査、不良状態になると思うんですけど、耐力度調査がいけるとなった、補修すれば大丈夫となれば、基本的にはそこで耐力度調査の大規模改修を入れるという認識でよろしいでしょうか。まず1個目です。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 原則としましては、長寿命化っていう形になっていくかと思います。

○委員長（堀内和久君） 岡本委員。

○委員（岡本喜好君） では、もし耐力度調査が駄目だとなったときは、先ほどの現地で建て替えるのか、別のところを探すんですけども、探すとき候補地がないので、結果的に今のままいくと、今ある高野口中学校のグラウンド側、土砂災害の警戒区域でない場所に建て替えることになるであろうという認識でよろしいでしょうか。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） もし代替地がないという場合になりましたら、そういったことも一案となってくると思います。

○委員長（堀内和久君） 岡本委員。

○委員（岡本喜好君） そこで今、確かに先ほど署名活動も進めてる。彼らの主張というのは、そういう同規模の生徒数で、実際にその敷地面積で、学校が建てられて既に運営されている場所があるので、不可能ではないよねと、その上に積んでいくっていう話なんかもわかんないですけども、そういう彼らは主張している。一方で、こちらの教育委員会は、適地がないというふうにおっしゃられる。その適地がないっていうよりは、その面積がない。確保できないと、そういう理由なんですか。それ以外の何か理由があって、そこが適地でないとい

うふうにおっしゃられてるのか、そこをちょっと確認させていただきたいと思います。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） もちろん、その面積的な適地っていうこともございまして、今の段階、先ほど部長答弁したような形になつとるわけなんですけども、面積的な要件であつたりとか、財源的な問題とかも出てくるかと思うんですけども、そういった形で今、そういった適地という形で検討ができていないというような状態になってます。

○委員長（堀内和久君） 岡本委員。

○委員（岡本喜好君） 面積的に今、その署名活動、旧応其中学校跡が足りるというふうに彼らは主張している。一方、教育委員会は足りないというふうに主張している。これどちらが真実なのか、もし、彼らの主張は、既にそういうふうな面積で運営されてる学校があるので大丈夫でしょうという主張をされている。じゃあ、こちらは、なぜその面積が足りないのか、あと何平米あったら足りるようになるのかっていう、何で平米足りないのかっていうのを、逆に教えていただきたいと思います。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 平米的な面積という形は、ちょっと今、出せないんですけども、例えばグラウンドがですね、もっと広く取れるとか、いろいろあると思うんですけども、確かにあそこの面積で学校の運営、こういった学校がありますよと事例も示されてるのは、もう承知しておりますけども。

ただ、今のところその場所が、まずありきという形で、今のところこっちのほうで、検討というか、いろいろ決定しているわけではございませんので、そういった意味で適地がないという形になるかと思います。

○委員長（堀内和久君） 岡本委員。

○委員（岡本喜好君） ちょっとよくわかんないですけども。

じゃあ、次に、財政面の話確認するんですけども、耐力度調査がもしバツとなった

場合、建て替えるわけですよ。なら、校舎を潰す費用、そして、新しいものを建てる費用。一方、旧応其中学校にしても、敷地は多分、市の有地なので、土地取得の費用はかからない中で潰すものと新しく建てるものということは、費用的に財政面の話は、どちらの敷地を使っても同じじゃないかと思うんですけども、その見解は、もしくは、高野口中学校は逆に広いから、敷地が広いので、2階建てでいい、もしくは平屋で作っていい、だから、工賃が安くて、旧応其中学校だと敷地面積が狭いので、2階・3階・4階建てにしないと駄目なので、逆に工費が高くなるんだとか、そういうところで財政面でついていけないので、ここは使えないっていうような、そういう検討の結果なのか。その辺、財政的についていけない理由について教えていただきたい。

○委員長（堀内和久君） 教育部長。

○教育部長（岡 一行君） 財政的にといいますのは、まず今回の調査で一定の点数を下回って、初めて国庫補助を取得できるラインがございます。そこをもし下った場合は、補助の対象になりますので、近くか遠くかっていう判断にはなるんですけど、今その遠くってところの議論のときに、今おっしゃられたように、限られた敷地の中に縦に建物を積んだ場合、ゆとりのない形になりますけども、そういった設計ができないのか、そういった検討は事務レベルではしています。

ただ、そうなりますと、校庭であったり、細かいこと言いますと、余裕教室、やはりそういったことは考えなければならないし、中学校の場合は部活動のスペースであったり、そういったところ、もっと極端に言う職員先生の駐車場スペースとか、そういったところも近くにないとか、前面の道路の幅員が大型車両入るとか、そういったのも含めて総合的に、今のところ、いけるぞってところまでは、正直いけてないっていうふうなところなんです。

以上です。

○委員長（堀内和久君） 岡本委員。

○委員（岡本喜好君） 今、その建て替え、そこまでいくとちょっと言い過ぎなのかな。今の現状のある場所にあることが、今の通う子どもたち、そして、ここで建て替え改修、建て替えた場合に、今後、40年・60年・80年ですか、今後そこに高野口中学校に通う子どもたちが、あその場所に通い続けるっていうことが前提になるときに、その教育環境という通学条件っていうのは、大きい要素だと思うんですけども、あそこに建て直すことが、教育環境上最適なのかという議論があるんですけども、そういう議論を踏まえたうえで、あの場所は橋本市として、あそこに中学校を再度置き直す、建て直す、修繕し直すっていうのが、最適だという議論をしたうえでの、この方向性という認識でよろしいでしょうか。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 改築、新築という形であそこに建てるのも一つの手ですし、もし長寿命化となった場合でも、30年程度利用、そこで利用するというのが前提のものになります。なので、あの、今の現在の場所ってことにするのであれば、市全体でも、どうするかっていうのは、ちょっとそこは考えないといけないという形で、今のところどっちという答えは、まだ確かに出てませんけども、どうすべきかというのは、そこは考えないといけないと思います。

○委員長（堀内和久君） よろしいですか。

土井委員。

○委員（土井裕美子君） ちょっとこの全体の表を見せていただいて、これ小学校と中学校があるんですけども、年代の古い学校、これ隅田小学校とか学文路小学校とかは、大規模改修を先にされて、大規模改修をしたところは、ある程度大規模改修で改修をしてるので、長寿命化っていうのは、令和27年とか、そんなんでも別にこれは問題ないっていうことなんですか、ちょっと大規模改修と長寿命化っていうのが、私、すみ

ません。よくわかってないんで。どういう感じなんですか。

それと、まずそれから。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 大規模改修という形になっておりますけども、このときですね、例えば隅田小学校でしたら平成24年かなと思いますけども、そのとき長寿命化というメニューがなかったの、ということで、大規模改修という形でしておりますので、そこは大丈夫かと思えます。

○委員長（堀内和久君） 土井委員。

○委員（土井裕美子君） そしたら、そういうメニューがなかったの、新しく、その長寿命化っていうメニューができて、同じようなことやっている感覚でいいですね。

そしたら、中学校のほうでいきますと、隅田中学校とかは、昭和39年とか、紀見も、紀見東中学校も、結構、昭和53年とか古いんですけど。令和7年以降で長寿命化になって、城山小学校が昭和56年で、令和4年か、長寿命化。西部に関しましては、昭和52年、昭和53年建築年度で、平成31年には長寿命化したんですけども、これ、優先的にまず小学校からやっていこうっていう感じで、年度が違って古いところからやるんじゃないくて、小学校優先でっていう、そういうお考えなのか、それとももう、年度が新しいにもかかわらず、とても傷みが激しいところもありますので、そういうところの観点で、傷みが激しいところから、建築年度は新しいけれどもやるっていう、そういう観点なのか。ちょっと城山小学校が結構早い時期にやっていただけるんやなと思って。中学校のほうが古いのに何でかなっていう、そういう感じを持ちましたので、その辺のご説明お願いできますか。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） お答えします。

築年数というのは、もちろん基準であるんですけども、その前に老朽の状況っていうのも調査しておりまして、その点数によって、ちょっと順番が前後してるケースあ

ります。なので、ちょっと、できるだけ老朽の進んでるところから、築年数だけでなく老朽状況が進んでるところから先にやっていってるっていうような状況があります。

○委員長（堀内和久君） 高本委員。

○委員（高本勝次君） また戻るんですけど、高野口中学校の件で。答弁聞いておったら、もう教育委員会ペースで進めてで、保護者の人たちのそういった声、ご存じですね。署名まで集めてるぐらいで、私、署名がいつって意味じゃなくて、どこへ持って来ても、近くなったり遠くなったりする生徒が出てくる。遠くなったら、またバスも考えていかなあかんと思うんですよ。今、いろいろ意見出されてきてる保護者の人たちの声ね、それはどんなふうにお聞きになって、今、この進行中の、この進め方について、位置付けがどないになって、入っているのか、そういう意見が入っているのか、反映されて物事を進めてるのか。答弁聞いてたら、もう調査して、その結論出してやっていくっていうことで、もう教育委員会のペースで進めてるような感じするんでね。そういう地域の人らの声っていうのは、全然入っておられないような感じするんだけど、その辺はどんなふうにお考え方進めてるんですかね。

○委員長（堀内和久君） 教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君） 今、調査をしている形で、どちらになるかっていうのは、これから決まっていく形になります。活動されてる方たちともお会いしたこともございますので、いろいろご意見、当然あるかと思えます。主張もあるかと思えますので、こちらのペースですべてを進めるとい形では必ずしもないと思えますので、いろんなご意見聞きながら、どうあるべきかっていうのは、当然考えていかないといけないと思っております。

○委員長（堀内和久君） 高本委員。

○委員（高本勝次君） けど今、調査されて、現地の建て替えとか改修とかいう形になっていったら、地域の人たちの声は逆の

方向になってるんですよね。だから、その地域住民の人たちの意向っていうのは、そうなった場合、どう説明されるんですかね。ちょっと何か、その辺が兼ね合いがちょっと一方的に進められてしまうような感じするんですけど、どうなんでしょうかね。やっぱり地域住民の人たちも、そりゃそうやと、そういう教育委員会進めてるやり方は、もう当然そうなって納得しますっていうことでなればね、地域ぐるみで賛成できるんだけども、地域の声と逆の方向に、地域の人たちはね、私聞ってる範囲ではね、あの場所は危険と、私もね、通行、道路見てね、ほんまに車の通りが少ないところで、一時的ね、安全でないように私も感じます。それで、地域の人たちは、そこは危険な場所なんかなということをおっしゃってるんで、もっとこう安全なところにね、建てていただきたいっていうのが願ひみたいに関こえてくるんでね、その辺の地域の人たちの声がどのように反映されていくんかなっていうのは、それはそれやとってなってしまうんかどうか、どうなんですかね。それが一番やっぱり気にしてる場所なんですね、地域の人たちは。教育委員会が、現地これ、結果次第で建て替えてしまうとなったらどうなるんですかね。もうその辺は説明できるんですかね。

○委員長（堀内和久君） 教育部長。

○教育部長（岡 一行君） 代表者の方とお話しする機会もあったりですね、今、署名活動が行われているということも情報も入っておりますし、結果次第で原則論は持ってるんですけど、住民の方の意見を何も聞かずに、その方向性だけでっていうところは、そういった気持ちはありません。

やはり、こういった議会の場ですので、まだそういう、失礼な言い方ですけども、ちょっと期待を持たせてしまうようなことを、こういう場で、議事録として残せないんで、私らとしたら。やっぱりちゃんと調べてですね、正直なところ、あの場所、建物そのものが危険かどうかということよりも、やはり冬の時期に、ちょっと遠方にあ

るということであったり、自転車通学であったりとかいうのを聞いてますので、建物自体は今、安全なんですけど、躯体の見栄えで、あそこにほんまにまた 40 年も出さずって、ええんかとかっていう、そういういろんな議論が、やっぱり事務局でもあるんですよ。ですから、意見を一方的に聞かないとかっていう、そういうスタンスはございませんので、総合的な目で、今、同時に並行に考えているのありますんで、そういった形、こちらもいろいろ模索してございます。

○委員長（堀内和久君） ちょっと待ってください。

暫時休憩いたします。

(午前 12 時 04 分休憩)

(午前 12 時 04 分再開)

○委員長（堀内和久君） 再開いたします。

土井委員。

○委員（土井裕美子君） 簡単に終わります。

11 月に高野口中学校の件ですけれども、11 月には耐力度調査の結果が出ると、当局側、教育委員会側としたら、結果が出てから会議を持つんじゃなくて、結果がよかったらこういう案、悪かったらこういう案っていうのをお持ちやと思うんです。そのときに、この長寿命化の上のずっと表を見ていったら、令和 7 年に隅田中学校、令和 10 年に長寿命化が紀見東中学校とかが入ってるんですけども、それと同時に並行としてやっていくのか、最優先で、この高野口中学校をやっていこうと考えているのか、案はお持ちなんですね、ここで発表はできないけれども、もう全く何も、その結果が出てから考えるじゃなくって、普通だったら先を読んで、あかんようになったら、このぐらいにこうしよう、よかったら、このぐらいにこうしようっていうのは、持つてはると思うんですけども、それは持つていらっしゃるんですね。それとももう、その結果が出てからしか会議は持たないっていう状況なんですか。年度は言ってもらわなく

でもええけど、持ってるんやったら持って
るって言って欲しい。

○委員長（堀内和久君）教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君）具体的な年
限っていうのは、ちょっと申し上げはでき
ないんですけども、案としては、腹案とい
う形では、いろいろ考えておるところです。

○委員長（堀内和久君）土井委員。

○委員（土井裕美子君）それは、ほかの、
まあまあこれ案やから、ちょっと長寿命化
の今までの計画がちょっとずれるっていう
こともあるけども。高野口中学校、傷みが
激しいっていうのはよくわかるし、耐力度
調査で、バツが出た場合やったら、本当に
すぐ取りかからなあかんと思うんで、それ
を最優先にやっていくっていう方向は、そ
れは決まってるんですか。

○委員長（堀内和久君）教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君）耐力度調査
の結果で、結果が出ましたら、優先してや
っていく形になるかと思いますので、ほか
のこの計画なども、再度検討するような形
にはなるかと思います。

○委員長（堀内和久君）板橋委員。

○委員（板橋真弓君）耐力度調査とか、そ
のね、建て替えとかの話ではないんですけ
ど、今現在、子どもたちが学んでる教室が、
もうほんま床ベコベコっていうので、めち
やめちやちょっとショックを受けたんです
けど、やっぱり危ないっていうか、教室の
ど真ん中が、もう床ベコベコになってると
かっていうのは、耐震化とかっていうより
も、一番喫緊の問題やと思うんですよ。溝
の何か予算はとってるみたいな形ではある
かと思うんですけど。どっかからお金を寄
せてでも、それ早急にやって欲しいなと思
うんですよ。その辺って、どのようにお考
えですかね。多分ね、子どもたちは、もう
当たり前みたいになってると思うんですけ
ど、やっぱり毎日そこで勉強するんで、
特に雨漏りとその下の関係はあるかと思
うんですけど、そのあたりの考えって、ど
のようにお考えですかね。

○委員長（堀内和久君）教育総務課長。

○教育総務課長（丸山恭司君）言うたら、
ピンポイントの修理という形でありました
ら、学校から要望があがってきたら、営繕
という形で対応させていただいて、例えば、
高野口中学校でしたら、同じような要望あ
りましたので、この8月のつい先日、一旦、
修繕をする。修理をしたような形をと
っておりまして、なかなか、こここここ
っていう形で、ピンポイントのような形に
はなってしまうんですけども、できる範囲
の修繕は行っております。

○副委員長（垣内憲一君）堀内委員長。

○委員長（堀内和久君）これでは終われへ
んの、また後日となろうと思うんですけ
ど、とりあえず整理すると、11月の所管事
務の、今回からの延長の次の報告が11月ぐ
らいには何らかの答えが来るというんで、
そこで、また聞かなあかんとは整理して
聞かせていただきます。

僕も抑えて質問するんですけども、まず
全体的に聞きたいのが、グラフ見ると、や
っぱり、平成30年・平成31年から空調付
けたところから、補助金の関係なのか、職員
がスイッチ入ったのか、割と工事がパッパッ
と多くなってきた。即ち、平成23年、
平成24年、平成25年、平成26年、平成27
年、コロナよりまだ2、3年前ですかね、
この辺は割と工事空白ですよ。バランス
がすごく悪いですよ。国土強靱化ってい
う言葉出たのがこの辺やったんかなとか、
補助金の名前が変わったのがこの辺やな、
地方創生って言い出したのこの辺やなと思
うんですけど。一体、あなたの方の諸先輩方
はこの辺は何をしとったんでしょうか。っ
ていうのが一番聞きたいとこなんやけど。
バランス悪いですよ。片やこのグラフで、
だいたい長計でも5年、10年でっていう話
なんで、今日は令和6年なんで、令和16年
ぐらいまでのグラフで全然結構やったん
です。まあ言うたらね。こんな先のとこまで
約束できないでしょ。案といえども。子ど
もがゼロになったら建物立派でもなくなる
もんはなくなります。だからそういうのが
ちょっと、ぶっつけ本番すぎるなっていう

イメージを持ってるんで、もうちょっとバランスよく工事、仕事をしてこなかったのかなっていう、5年、6年、7年ぐらい前の部長さんに言いたいなっていうのはちょっとあるんです。ちょうど図書室のエアコンのときぐらいかな。僕思うにね。それはもう答弁しにくいと思うんで、今の部長、課長は一生懸命やってくれてると思うんで結構なんですけど。こういうのも踏まえうえて、ちょっとバランス悪い、補助金とる、財政部局にも負担かかると思うし、今の部長、課長、その以下の職員もオーバーワークになってきとる。これをもう一回ちゃんと整理せないかん。これを人事と一回かけおうて、ちゃんとやって欲しいっていうのが私の思いです。これ要望ですわ。職員これ以上こけたら洒落にならんっていうことですわ。ここ一つ、後日また回答して欲しいと思います。

今回、聞いておきたいのが、先ほど岡部長が言われた、ポイントに対して補助金変わるみたいな表現に聞こえたんです。だから、耐力度調査の答えがどない出るかで方向性変わるっちゃうのは何となくわかるんですけど、耐力度調査のザックリどんな項目で、何点中何点あったらどないなるっていうふうに、ちょっと軽く教えて欲しいんですけどね。それが私らわからへんのですよ。まあ言うたら。そこら辺やったら答えられません。お願いします。

○副委員長（垣内憲一君） 教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（裏川和男君） 耐力度調査につきましては、公立学校施設における建物の構造耐力と経年による耐力機能低下って言って老朽度度合いとか、立地条件による影響の3点で、総合的に調査やって、建物の1万点が一応満点になるんですけども、それを減点方式で調査するようになります。耐力度調査の点数が4,500点以下となれば、その危険改築事業の補助の対象となります。ただ、別敷地移転をする場合でしたら、5,000点以下までちょっと緩和されますので、その点数以下になれば、別敷地で

の補助の対象と危険改築事業の対象となります。

以上です。

○副委員長（垣内憲一君） 堀内委員長。

○委員長（堀内和久君） ものすごいわかりやすいのありがとうございます。この点数が、どう反映されるのか、よその事例で言うたら、この程度の学校やったら6,000点ぐらいやってセーフやったとか、この程度の学校やったら3,000点でアウトやったっていうのが、もう一つわかれば、私ら技術屋じゃない素人はわかりやすいんです。

こっからもう一個聞くんですけど、耐力度調査で、その壁とか床とか、床イコール天井、この辺の雨漏りとかで老朽化していったら。この間、高野口中学校行かせてもたらコンクリートの壁穴開けて補修してある。これ多分コンクリートの材質とか、あれを見るためにコンクリートを持って行ったんであろう、そういうの所々見つかりました。雨漏り云々。その耐力の条件の数字的根拠出すのに材料を持って行って11月になろうかと思うんですけど、立地条件の定義って今言われた分ですね、この分っているのは、どういうふうな調査内容になるんでしょうか。

○副委員長（垣内憲一君） 教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（裏川和男君） 立地条件につきましては、将来の構造耐力とか健全度に影響を及ぼすような項目を測定するものであって、地震の地域係数であったりとか、地盤の種類とか、敷地条件とか、積雪寒冷地とか、海岸からの距離とかです。係数がありますので、大きく変わるものではないです。

以上です。

○副委員長（垣内憲一君） 堀内委員長。

○委員長（堀内和久君） ほんなら、今回の耐力度調査の項目で立地条件云々ちゅうのが、この今の話なんであれば、将来性の基盤とかそういう話出とると思うんですけど、あそこは盛土、切土、切土から造成しての盛土になります。壁のコンクリートの素材

を確認したりっていうのは、建物の強度を測るため、鉄のレベルを測るため必要な項目だと思います。でも、それと同じぐらい、それ以上大事なのが立地条件、即ち、天井とかその辺の雨漏りっていうのは、また別の話になろうかと思うんですけど、校舎と校舎のずれから出る壁の亀裂、横からの吹き降りの雨漏り、この辺の体制っていうのは、技術屋さんやったらわかると思うんですけども、よく企業誘致でも聞きますよね、ボーリング調査、地盤の調査っていうのを、きちんと数字的根拠を持って、ここは切土、盛土、大丈夫であるっていう根拠をちゃんと持ってくれるのかどうか。ボーリング調査してないでしょ。これでどうやってこの1万点、わざと低く点数を取るために外しとんですか。ここが一番大事やと僕思うんですよ。壁と壁が、建屋と建屋がずれてるんですね。ほんだら、将来性を計るうえで考えてみてください。自分のお家が建て増しってあんまりないと思いますけど、壁が縦に亀裂入るとるっていうたら、基礎割れとる、地盤がどないかなってないか、地震が怖いんでしょ。何で地盤の調査しないんですか。そこが僕、今回一番聞いておきたいとこなんです。いかがでしょう。

○副委員長（垣内憲一君） 教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（裏川和男君） ボーリング調査につきましては、建物建設当時にボーリング調査をしております。そのデータを基に耐力度調査のデータとして使っているような形です。

○副委員長（垣内憲一君） 堀内委員長。

○委員長（堀内和久君） いや、建物を建てたときの調査の数字っていうけど、建ててから安全なはずのところに建ててから、ボーリング調査して大丈夫なところに建てたはずが何十年でこないなっとるんじゃないですかっていうお話なんですよ。だから何十年の時間が流れて、過去の歴史とか、ここに昔何やったんか、500年、1,000年前何やったのかって、そこまで言いませんよ。でも、ある程度、高野口中学校建てる前は森林や

って、あの場所が当時、合併前の高野口町があそこにしようって言って行ったのは、我々別に悪いとは言っていないですよ。合併させていただいて、今の耐力度調査をしようっていう、何十年に一回の変革のチャンスのために、なぜ地盤をきっちり硬い、大丈夫や、これ以上ずれることないっていう根拠を持たずして、その耐力度調査の結果次第で右に行くんか左に行くんか、署名運動の動向はどうのこうの、代替地がどうのこうのっていうけど、代替地を探しとかなあかんのと違うんですかっていうお話なんですよ。ここをきちんとね、地震が怖いとか雪崩とか土砂災害がって、災害が災害がって言うんやったら、なぜ今、今日の現状の地盤調査をして大丈夫であるっていうことを、建てたときと同じでしたって、何で言っていないんですか。じゃあ何でずれたんですかって、なぜ考えようとしなないんですかっていうことが、ちょっと残念なんですよ。自分のお家やったら、そないしません。やめとこかなってなりませんかね。

だから、ここを教育委員会さんに、基礎中の基礎と思って欲しいんですよ。コンクリートの耐力度調査も大事やと思うんですけど。どんな頑丈なもん建つとるこでも、足元グラグラやったらまた亀裂入るんですよ。菱形になって隙間できるんですよ。雨漏りするんですよ。公的資金何十億も導入したのに、5年、10年でまた雨漏りするってなったら、後輩たちと現場で働いとる職員、子どもたちに申し訳ないって思えんのかなと思って。だから、調べて欲しいっていうことを質問しとんですよ。いかがですか。

○副委員長（垣内憲一君） 教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（裏川和男君） 一応、耐力度調査の項目の健全度の中で、不同沈下量っていう一応項目がありますので、そこで、不同沈下のされてるっていうのを、耐震診断やったときにも、そのデータで確認しておりますので、そのデータとどう変

わっているかっていうのは確認できるかなと思います。

○副委員長（堀内憲一君） 堀内委員長。

○委員長（堀内和久君） 所管事務が今日で終わるわけではないので、もう今日はこれ以上は言いませんけども。やっぱり大丈夫であるっちゅう根拠を一番に持たないのに、建屋のコンクリートの強度なんかは、失礼ですが、二の次三の次なんかなって、僕は思っちゃいます。だから、署名運動の民意っていうのを発展して欲しい。それは市長に対して、教育長に対してのメッセージとして来るであろうと思います。そのときその人が考えればいいことです。私が申し上げることではないんやけども、議会議員は、やっぱり民意の代表でありますので、そういう民意の部分っていうのは、今後、所管事務以外の一般質問以外のところでも議論していきたいと思いますし、ここの大丈夫であるっていう根拠を、もっときっちり足元固めやんと、余計な仕事増えて、さらにオーバーワークになりますよ。耐震補強のときのって言いますけども、10年、15年前の数字を基に、そんなん信用していいんですか。同じ数字であるっていうことを確認するのにも大事なとちゃうんですか。10年後、いろんな技術力発達しとるんで、補助金あるうがなかろうが、ここの土地は絶対大丈夫なんやっちゅう根拠を一番地一丁目に持たないと、建て替えの選択肢の議論の前やと思うんですよ。ほかの地番は結構、隅田中学校とか、あと、紀見北がちょっと法面なんかな、あの辺もきっちり、子どもたちの命と防災の拠点に近いところは、この建つとる場所は山岳地帯多いんで、橋本市は。大丈夫であるっちゅう根拠をせっかく技術屋さんが教育委員会にいったんやから、しっかり歯車回してリンクしていただきたいと思います。

僕、委員長でしゃべり過ぎて申し訳ないですけど。その後に9月で、一般質問で、また誠実に答えていただいたらいいんですけど、そのとき考える。そのとき考えるって言う前に、やっぱり足元しっかり固めて

いただきたい。大丈夫やでって、どっちへいっても、安全安心なんやでっていうことを、やっぱり教育委員会としては保たなあかんのとちやいますかね。ちょっとだけ答えてくれたら、もうこれ以上聞きませんので、いかがでしょうか。部長いかがですか。

○副委員長（堀内憲一君） 教育部長。

○教育部長（岡 一行君） おっしゃっていただいたことに対して、わきまえますと言いますか、そこはございます。十分なところまではすぐに行かないかもわかりませんが、今いただいたことを受けとめて、できることを考えていきたいと思います。

○委員長（堀内和久君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（堀内和久君） なければ、本日はこの程度にしたいと思うんですけども。

暫時休憩いたします。

（午前 12 時 22 分休憩）

（午前 12 時 24 分再開）

○委員長（堀内和久君） 再開いたします。

ほかにご意見ありませんか。

土井委員。

○委員（土井裕美子君） この問題については、なかなかいろいろ委員会としても、現地の調査も行くべきだと思いますし、継続してですね、個々議員さんは現場に入ってもらっしやると思うんですけども、やっぱり委員会として視察などもさせていただいて、しっかりと調査を、所管事務調査でございますので調査をして、何らかの形で、この委員会としての答えっていうか、答申みたいなのを出す必要があるのではないかなと感じておりますが、いかがでしょうか。

○委員長（堀内和久君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（堀内和久君） 土井委員から言われたことを重点として、答えの返ってくるであろう継続の調査対象の材料と文教厚生建設委員会として、高野口中学校だけでは

なく、地域の防災も込みで、学校現場の周辺のところをきちんと全学校、危ないと言われるところに対して、文教厚生建設委員会全員で、ちょっと調査、現場におりたいと思いますので、皆さんご了承いただけますでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり。）

○委員長（堀内和久君） 調査としては継続の意見ありということで継続とさせていただきます。

ただ今、土井委員から本所管事務調査を継続することを求める旨の発言をいただきましたので、お諮りいたします。

市立小中学校の長寿命化改良事業の進捗状況等について は、調査を継続することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（堀内和久君） ご異議なしと認めます。

以上で、本委員会の協議事項はすべて終了いたしました。

これをもって、文教厚生建設委員会を散会いたします。ご苦労さまでした。

（午前 12 時 27 分 散会）